

大阪府立大学初年次ゼミナールの概要



大阪府立大学 副学長（教育・入試）

高橋 哲也

2018.11.11 大阪大学「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学豊中キャンパス

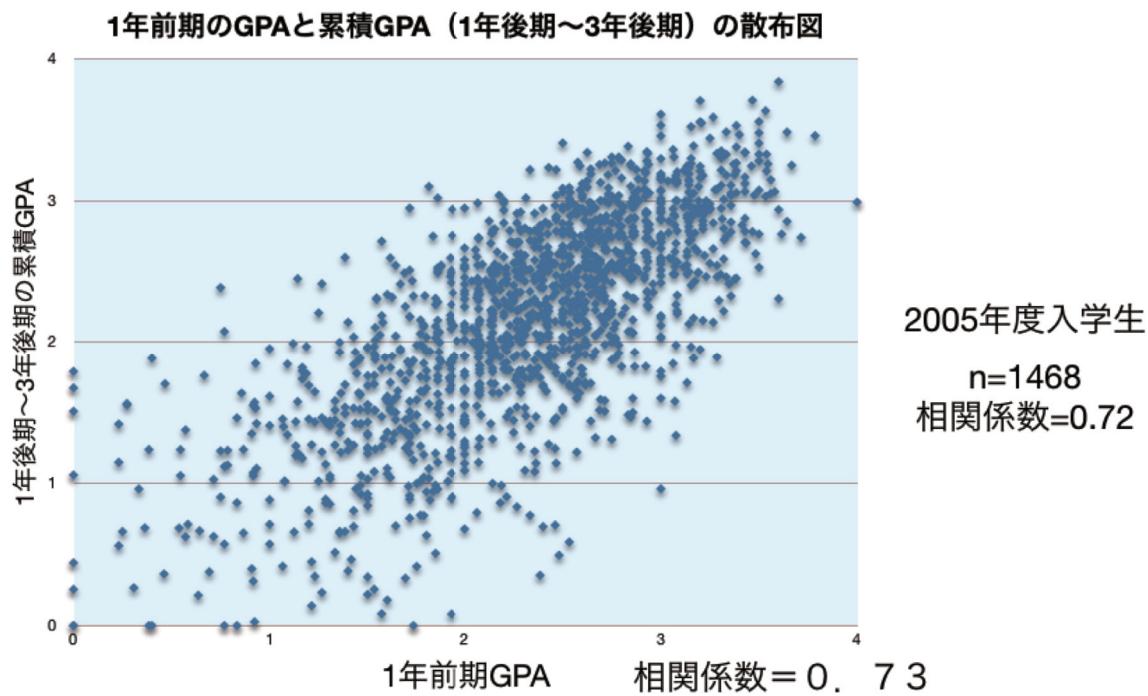
1

初年次ゼミナールの導入の意図

- GPAを2005年入学生の結果で分析すると1年前期のGPAが3年後期終了時のGPAを殆ど規定することが判明
- その傾向は年度によって変わらず
- 一方、GPAは入試の成績とは相関がなかった
- 学内で議論した結果、大学での学びへの対応がスムーズに行えるかどうかが重要という仮説へ
- 自分から学ぼうとしないと誰も助けてくれない大学での学びへの転換を促す科目として初年次ゼミナールを導入

2

GPAの分析



導入までの過程

- カリキュラムデザイン会議（2008.8～2009.7）
教育担当理事の学士課程教育に関する諮問を受けて初年次ゼミナールの導入を答申
- カリキュラム策定WG（2010.1～7）
導入科目として「初年次ゼミナール」を開設し、原則1年前期必修とすることを決定
- 初年次ゼミナール検討WG（2010.9～12）
初年次ゼミナールの基本的考え方・基本設計、運営方法等について検討
- パイロット授業の実施（2011）
教員有志がパイロット授業(9クラス)を実施
- FDワークショップの実施（2009,10,11 各年度1回）
「大学初年次の基礎ゼミナール科目の設計」をテーマに、全部局の教員が参加しワークショップを実施

基本設計

●初年次ゼミナールの目的

受動的学習から能動的学習への学びの転換

●初年次ゼミナールの教育目標

- 1.多様な視点を積極的に取り入れ活用できるようとする。
- 2.知識・情報の収集が積極的にできるようとする。
- 3.収集した知識・情報を活用して考えることができるようとする。
- 4.得た情報や自分の考えを表現・発表できるようとする。
- 5.自分の考えを自分で再検討できるようとする。

5

実施にあたっての基本方針

- テーマは担当教員が得意とする分野から自由に設定
- 知識の習得自体を目的としない
- すべての学域の学生を受講対象とし中等教育までの知識を前提に授業設計
- 研究公正の重要性を理解させるよう配慮（「アカデミックライティングの手引き」（後述）の活用）
- レポート等の課題を複数回設定し、コメントを付すなど教員からフィードバック（双方向性の確保）
- 学生同士のコミュニケーションを重視（グループワークの活用）
- また学生の主体的な学習を引き出すため、授業時間外の学習時間を確保

6

実施状況

- 2012年に開設し、今年度で7年目
- 毎年、90クラス以上開講（今年度は98クラス）
- 学生はシラバスを見て、4クラスを順位をつけずに選択しそのなかから履修（抽選しているが4クラスの中で必ず当選）
- 必修のため、再履修クラスも必要（2クラス程度）
- 当初は、担当者説明会と実施した教員の実践事例報告を開催（FD活動の一環）
- 実験・実習、旅費、教材費など、授業の必要経費については予算措置
- (参考) 科目リスト (<http://www0.osakafu-u.ac.jp/syllabus/list02.aspx?CD1=3&CD2=602>)

7

受講開始までの運用

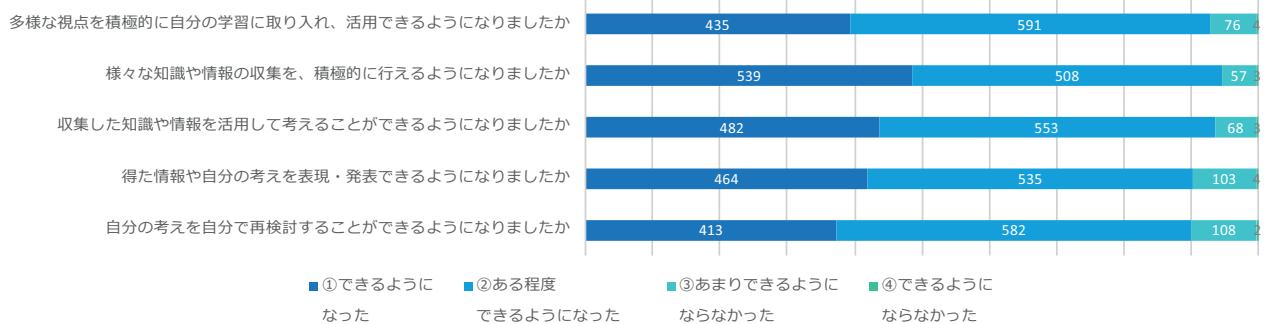
- 1年前期必修のため、受講クラスの決定までのスケジュールがタイト
- 4月2日に全体でのオリエンテーションを実施した上で各学類に分かれて4クラスの希望をOMRに記入
- 新入生には入学手続き時に「授業科目ガイド」を配布し授業概要とシラバスを見て事前に選んでおくように指示
- 抽選は希望者が少ないクラスから1名ずつ抽選し確定していくアルゴリズム（人数を平準化）
- 欠席者も呼び出すか電話で希望を確認し、4月5日の教養・初修外国語の抽選までに結果を確定

8



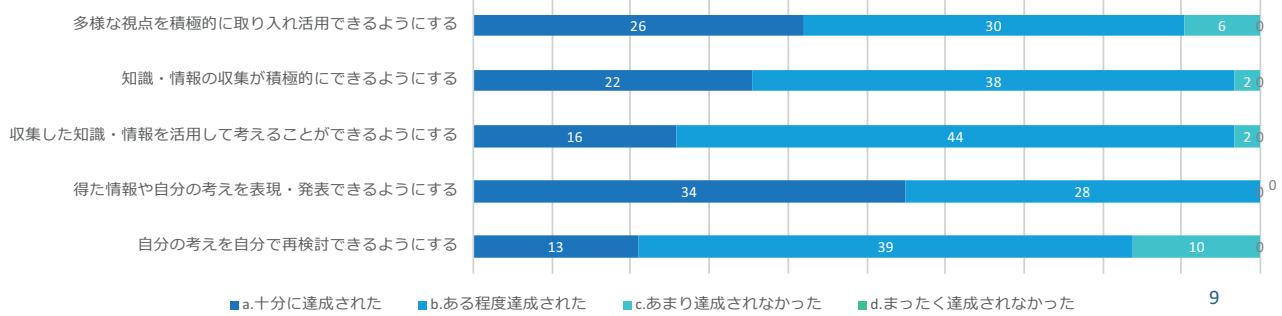
2012年度 初年次ゼミナール達成度アンケート（学生）回答率72.0%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



2012年度 初年次ゼミナール達成度アンケート（教員）回答率 87.9%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

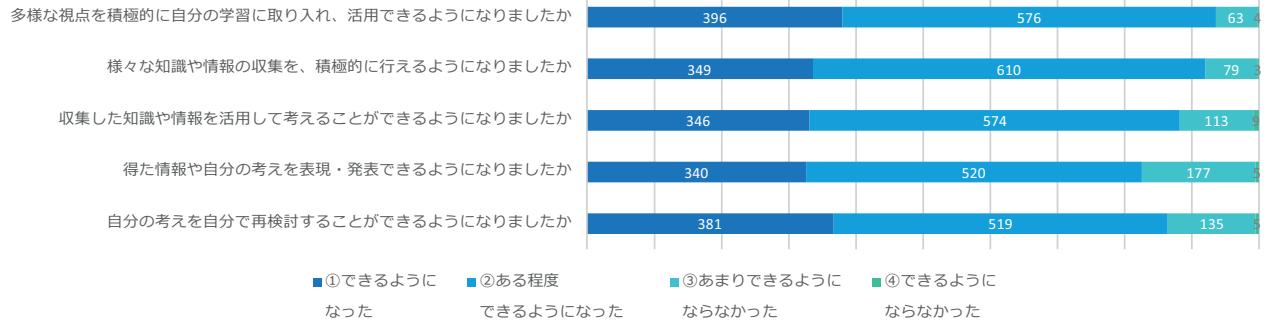


9



2014年度 初年次ゼミナール達成度アンケート（学生）回答率81.9%

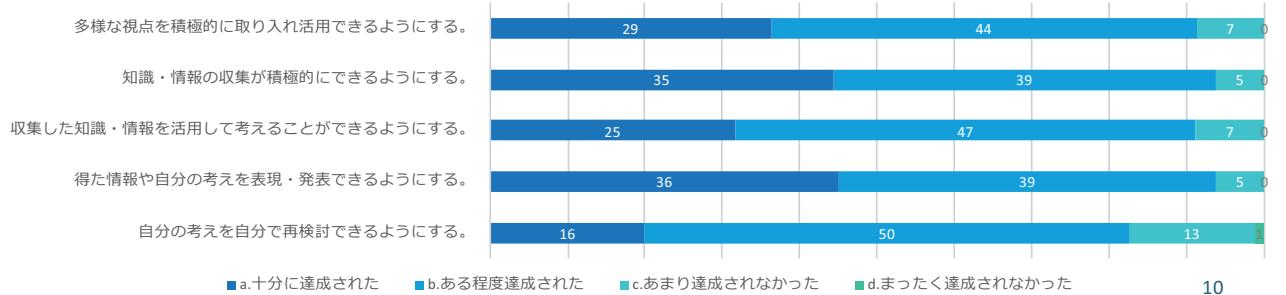
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



10

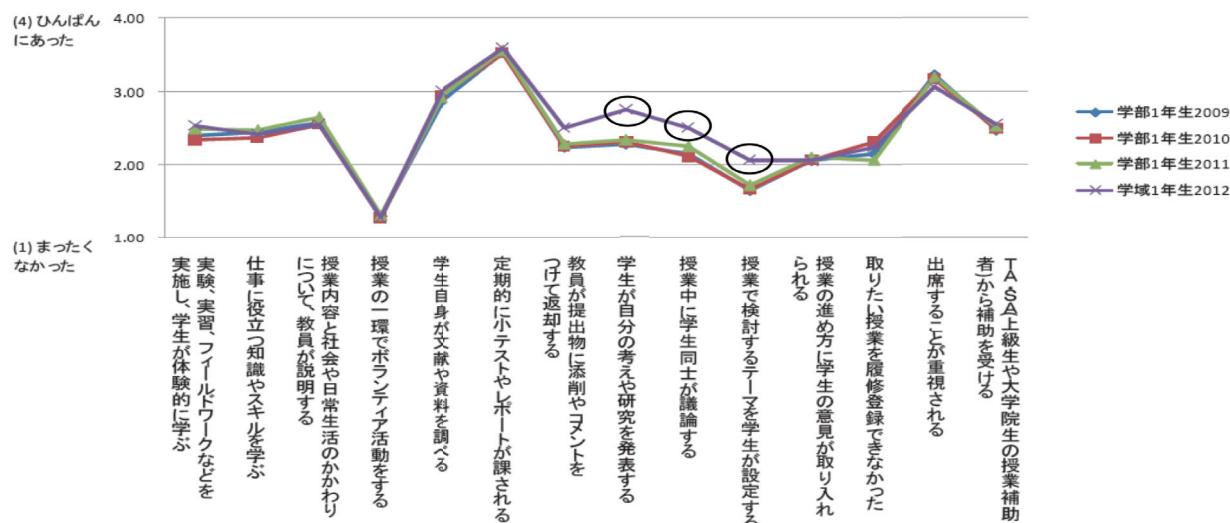
2014年度 初年次ゼミナール達成度アンケート（教員）回答率 68.4%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



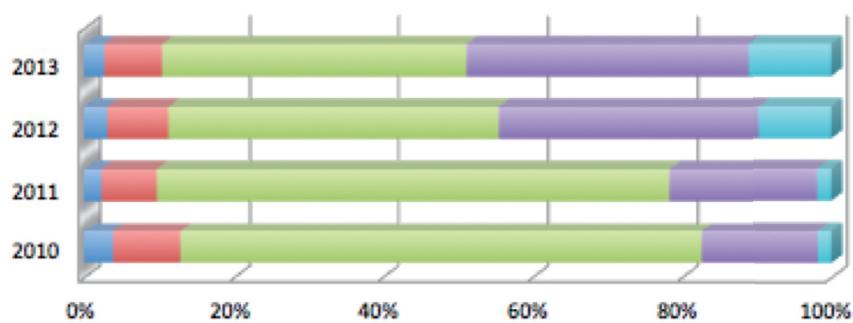
10

学生調査による分析



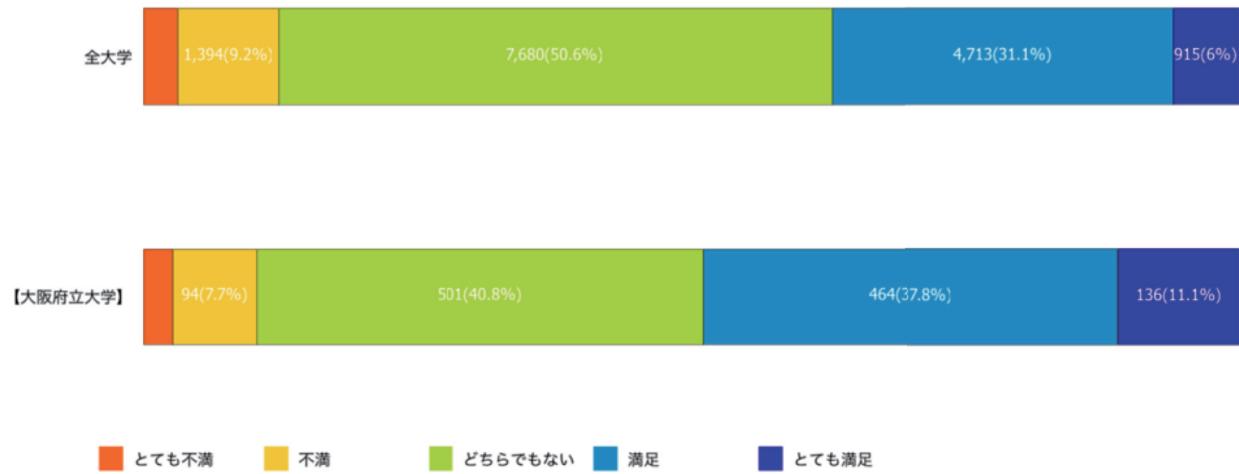
11

初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）の満足度



	2010	2011	2012	2013
とても不満	46	24	36	33
不満	107	79	97	94
どちらでもない	832	732	523	501
満足	187	212	413	464
とても満足	21	20	114	136

12



2013年度大学IRコンソーシアム
1年生調査 問16B 集計結果より

13



課題

- 科目提供の持続可能性

初年次ゼミの効果は認識されているが、教員の負担増が問題となるなか、初年次ゼミという絶対に必要ではない科目への抵抗感（まだごく一部だが）

- 成績評価

アクティブラーニング型科目の成績評価への疑問は継続。ループリックを提供しているが科目の自由度が高く、広まってはいない。

- 教員の適性

ファシリテーターという役割が難しい、一定数の教員の存在。